

# 成り手確保をめざして

## 中津川市の概要

中津川市は、東に木曾山脈、南は三河高原に囲まれ中央を木曾川が流れています。東西28キロメートル、南北49キロメートル、総面積676.45平方キロメートル(琵琶湖とほぼ同じ)を有し、市のシンボルである恵那山がそびえ、エメラルドグリーンに輝く清流付知川が流れています。平成17年(2005年)に旧長野県山口村を含む7町村と合併し、現在に至ります。近年はリニア中央新幹線の岐阜県駅と車両基地が市内に設置されることに伴い、リニアを活かすまちづくりが進められています。

## 取り組みについて

### 高齢者等見守り支援に関する基準の制定

中津川市民生委員児童委員協議会連合会(以下、「連合会」)は、平

成の大合併により、1市7町村が合併し、15単位民児協、委員数225名(内主任児童委員30名)で構成されています。

1市の8地区と、7町村の7地区の高齢者等の見守りの支援は、合併後もそれぞれの地区で決めた基準で支援をしている状況でしたが、支援対象などにばらつきがあった為、連合会で協議し、統一した支援基準を作成することにしました。その中でそれぞれの地域性も加味して、見守りの支援の基準を定め統一することができました。



高齢者ファイルに統一した支援基準の資料を入れて全委員へ配付しました。

### サポート員制度の創設

全国的に少子高齢化の進行や単身世帯の増加、委員への負担の増加等により、成り手不足の問題が生じています。中津川市は、定数225名の委員で活動はできていますが、成り手不足について懸念しています。また、改選時に全委員が退任し、新任委員が単位民児協の会長になるな

# 中津川市民生委員児童委員協議会連合会

ど、新任委員の不安が大きいとの話がありました。こうした状況を踏まえ、市と連合会で協議を行い、今年度「サポート員制度」を制定することになりました。



サポート員の手引きを作成し、全委員へ配付しました。

サポート員制度は、退任する委員が、新任委員を一定期間サポートします。新任委員の相談や活動の支援を行い、不安の軽減を図り、スムーズな活動の継承を行うことで、地域の見守り支援が充実することを目的にしています。サポート員制度により、新任委員が安心して活動が行える、相談できる体制があることで、成り手の確保につながることを期待しています。

### 委員の就業先事業者への協力依頼

岐阜県民生委員児童委員協議会より依頼がありました。委員が活動しやすい環境づくりの為、委員の就業先へ委員活動に対する支援・協力を依頼することについて、中津川市でも、希望する委員に対して、就業先

へ活動の協力・支援を依頼することになりました。委員の活動しやすい環境となる一助になることを望んでいます。

### 民生委員児童委員チラシ

毎年、中津川市では4月に委員に関するチラシを全戸配布しています。今年度は、成り手確保の目的で「民生委員児童委員やってみませんか?」のチラシを作成し配布しました。



毎年4月に中津川市で全戸配布しているチラシ(令和7年度版)

## 今後について

今後、委員の成り手不足は、大きな課題になると思いますが、関係団体と連携し、地域の見守り支援の充実を図り、住民に寄り添う「良き隣人」として活動を行っていききたいと思います。